



みぬまニュース

第83回見沼塾

「水の健康診断と合成洗剤」7月16日

水の惑星といわれる地球に住む私たち人間をはじめ多くの動植物の生命は、地球環境の絶妙なバランスが生み出した生態系により育まれています。私たちの生命を維持する上で水はもっとも大切なものです。近年では私たちの飲み水のほとんどは、河川の水を浄水処理して飲んでいます。

水道法による基準項目に[発泡]の観点から、陰イオン界面活性剤、非イオン界面活性剤の基準があり、現在のろ過システムでは農薬や合成洗剤のような化学物質は完全に除去出来ていないのが現状です。



私は水道の蛇口から安心しておいしい水を飲み続けたいと願っています。

使用した生活排水の行方を知り、下水処理施設の見学もしました。水は繰り返しリサイクルされ、また飲み水として利用されています。洗浄剤として使用されている合成洗剤の成分は、分解がされ難くそのまま環境中に留まり、河川の悪化を招いています。栽培される作物もきれいな水でこそ、本来の素晴らしい味になることでしょう。

講座の内容

水の循環・石けんの歴史

ケチャップ・マヨネーズを使った水の汚染バックテスト

飲み水と合成洗剤と虫の話

かいわれ大根の発芽テスト

歯みがき剤の食味テスト

蛍光増白剤の移染テスト

合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡会
大高 文子

彩の国クールスポット100選

見沼たんぼ地域から16ヶ所も選定

本年8月に選定委員会(事務局:NPO法人環境ネットワーク埼玉)が埼玉県内276のクールスポットを発表しました。その中に、見沼たんぼ地域から次の16ヶ所が選ばれています。

見沼代用水西縁浦和西高裏、大宮公園、氷川参道

と氷川神社、合併記念見沼公園、見沼橋、見沼緑道、市民の森、緑のトラスト保全1号地、見沼自然公園、大谷ホテルの里、見沼通船堀、見沼氷川公園及び氷川女体神社、新見沼大橋スポーツ広場、埼玉スタジアム2002公園、旧坂東家住宅見沼くらしっく館、さいたま市大和田緑地公園特別緑地保全地区

見沼ふれあい農園づくりスタート

秋野菜の種蒔き 子ども連れ多く賑やかに

9月10日(土)、残暑厳しい中、見沼たんぼのど真ん中で、見沼たんぼくらぶ主催で、県民参加の秋野菜づくりがスタートしました。

種子は聖護院大根、紅芯大根、総太り大根・子かぶ、小松菜、水菜、春菊です。

苗はキャベツ、ブロッコリーです。午前は見沼大橋西方の緑区見沼610・613地内1号地で、60名(大人39・子ども21)の参加。午後は見沼氷川公園南側の緑区見沼484地内2号地で、84名(大人55・子ども29)の参加。

子どもたちに感想を聞いてみました。「土がさらさらで気持ちいい。」「緑いっぱい空気美味しい。」「お父さんと一緒に嬉しい。」「一粒の種子で、でっかい大根ができるって、収穫が楽しいな。」など。

合併記念見沼公園ふれあいまつり

ハイライトは熱気球搭乗体験!

同公園周辺地域の自治会・市民団体・学校が市都市公園課・市公園緑地協会と一堂に会してセントラルパーク市民協働会議を組織して、公園の運営や見沼たんぼの保全について協議し、行事も開催しています。その最大のイベントが春秋2回のふれあいまつりです。

秋まつりを紹介しますので、出かけてみませんか!園内の沼にはカラフルな冬鳥が迎えてくれますよ。

日時:10月30日(日)10時~16時

会場:合併記念見沼公園

(自治医大医療センターの南側)

催物:熱気球搭乗体験(小中学生限定・無料)、見沼の自然ふれあいウオーク、蕎麦うち実演、秋野菜販売、ステージ、フリーマーケットなど

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさん見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

ヒガンバナの思い出

8月の末、見沼自然公園から国昌寺に向かって散策する。見沼代用水東縁に沿って歩くと桜並木になっており、濃い緑の葉に



覆われた道は「ヘルシーロード」と呼ばれているのだった。これまで暑い日が続いたが、今日は陽の射していない曇り日である。

見沼代用水東縁のヒガンバナ

どの人も軽快な足取りだ。向こうに見える人の動きは家族連れである。幼稚園に入園前の子供と思われるが、男の子が2人、若いお母さんの後を懸命に追い掛けている。カルガモが池のほとりを歩く時、親鴨に置いて行かれないように、子鴨が必死になって追い掛けている写真を見るが、丁度、その時と同じような状況に見える。

代用水を流れる水の量は豊富だが、およそ60kmも離れた利根川で取水され、ここの見沼田圃まで流れてくるのだという。8代将軍・吉宗の頃に造られた農業用水路で、この水路が開発された事により、見沼田圃が造られ幕府の財政危機を救ったと伝えられている。

昨年の秋、この辺りを散策したが「ヒガンバナ」が咲いていた事を覚えている。桜並木の下にてんと群生しており、30~50cmに伸びた花茎の先に、真っ赤な花を付けている。茎は真っすぐにピーンと伸びており、枝も付けていなければ葉も付けていない緑の茎だ。

花は大人の握りこぶし大の花で、注意してみると、幅が5mm長さ50mmほどの細い幾枚もの花びらを付けており、その先が相談した様に全て反り返っている。雄シベと思われる部分がシュンシュンと細い針金状になって突出しているのが可愛い。

ヒガンバナは昔、田圃の畦道に植えられていたそうである。地下にある鱗茎が有毒との事が知られており、ノネズミやモグラが田圃を荒らすのを防ぐ目的で植えられたそうである。

遠くから見ると、ヒガンバナの花が咲いている辺りは、それこそ燃えるように真っ赤に見え、実に素晴らしかった。その様子は頭の中に今でもしっかりと記憶されており、印象的な花として残っている。今年もまた、その頃になったら同じ様に咲いて、季節の訪れを知らせてくれる事であろう。(召田 紀雄)

原風景を残す高沼用水路

歴史的、環境的価値を持つ高沼用水

高沼用水は見沼代用水西縁の大宮区天沼町から分水し、さいたま市の中央区を貫く用水路です。見沼たんぼの完成の1年後に、伊澤弥惣兵衛為永によって、それまでの「鴻沼」を水田とするために造られました。このため東西の用水路が台地と低地の境に造られるなど、見沼たんぼと同じ構造を持っています。この高沼用水路は、最近まで造られた当時の原形が比較的良く保全されており、その歴史的価値とともに、都市の中の環境的資産としての価値も持った用水路です。

岐路に立つ用水路

しかしながら、近年、高沼用水の護岸・改修工事が歴史的な価値や環境への配慮に欠けたまま進められようとしていることなど、大きな岐路にたたされています。

このような状況の中で、平成21年、高沼用水の歴史的価値を保全しながら、水辺と緑のまちづくりを進めるため、この地域で活動している5つの市民団体により「こうぬまネットワーク会議」が設立され、市の関係部門と持続的な協議を行う中で、護岸工事が「原形を保全」しつつ、「多自然型工法」で施工されるなど、成果も出始めています。

(こうぬまネットワーク会議 事務局長 北原典夫)



高沼用水西縁で行われている灯籠流し

見沼たんぼの動植物

－ 芝川に多いカモの仲間 －

見沼たんぼを貫流する芝川では、冬になると10種類ほどのカモの仲間が見られます。ここではよく見られる6種類について紹介いたします。

カルガモ以外のカモは雄がきれいな羽色をしています。それに比べて雌は卵を抱くこともあり、地味な色合いです。(これをカモフラージュというとか・・・?)

カモは潜水するかしないかで大きく2つに分類できます。この辺では潜水しないタイプの方が多く見られます。潜水しないカモは、水に沈んだ感じで、足も体の中央に近い所についています。

1 カルガモ

カモの仲間では例外的に雌雄でほぼ同型同色で、一年中見られます。くちばしの先の黄色がポイントです。



2 コガモ

小型のカモで8月末～5月半ばまで見られます。雄は顔にアイシャドーをつけているよう見え、尾の下の黄色い羽が特徴です。



3 オナガガモ

カモのなかまでは一番大きく、名前どおり尾がピンとしています。他のカモに比べて長い首も特徴です。



4 ハシビロガモ

名前のようにくちばしの幅が広くシャベルのようです。緑の頭、白い胸、茶色の脇、黒い背と大変にカラフルです。



潜水するタイプのカモ

5 キンクロハジロ

黒い体に白い羽のコントラストがきれいです。目は金色。



6 ホシハジロ

茶色い頭、黒い胸、灰色の背、そして赤い目が特徴です。後頭部に小さな飾り羽があります。





見沼たんぼの農家さんのお話



オーガニックハーベスト丸山
丸山文隆さん・恵美子さん

見沼区蓮沼の住宅に囲まれた一画、家々の立ち並び真ん中にぽっかりと緑の空間。丸山文隆さん・恵美子さんのご自宅前にある畑です。お訪ねした時は、回りに植えられているブルーベリーが終わりかけて、枝の間から畑の夏野菜が見え隠れしていました。



丸山さんご夫妻

代々の地元農家に生まれた文隆さんは、いずれは農家を継ぐつもりで農学部を卒業。当時先進的な緑地工学を専攻し、就職した園芸会社では徹底的にビジネスを教えられますが、その後大宮市の技術者募集を受けて農政課職員となります。その頃の大宮市農政課は全国に先駆けて直売所づくりの真っ最中。組織の立ち上げから直売所の建設、マップ作りと活発な議論や活動が繰り返されたそうです。その後、みどり推進課で「みどりの基本計画」作成などに携わります。「みどり」農業を知る行政マンとして活躍されていましたが、仕事に区切りがいたら役所を辞めて「農のある町づくり」の実践に携わろうと思っていたそうで、現在は退職されて農業者として5年目、遊休農地の活用を含め、見沼たんぼ等市内数ヶ所で計6ヘクタールほどの農地をご夫婦と4人のアルバイトの方で有機肥料と低農薬にこだわって耕作、大宮高島屋、ヤオコー、ヨークマートなど7ヶ所に野菜やお米を出荷しています。今は自分で値段をつけられる時代になったから、農家もやりがいがありますよ、と明るく語っておられました。

恵美子さんのご実家も農家で、小さい頃から農業に意欲的に取り組むお母さんの背中を見て育ちました。若い頃はやはり都会に憧れて、高校・大学は世田谷の叔母さんのところから通いましたが、だからこそ田舎の良さに気付くことができました。農業大学に進学し、途上国での農業支援について勉強しますが、国際情勢の悪化を心配したご両親の反対もあって、途上国ではなく国際農業者交流協会の学生を対象とした研修

で、一年半スイスの複合農家で研修を受けることとなります。そしてここでも意欲的に農業に取り組む人達と出会い、また畜産と組み合わせた循環型の農業を体験します。スイスではすでに当時からアルプスの氷河が溶け出したりと温暖化が問題となっていました。そんな中で、地球を守りたいという漠然とした思いを持って帰国しますが、現実は何をしたらいいかわからない日々が続いたそうです。ドイツ語通訳の資格を生かしてしばらくは通訳として働きますが、やがて北本市の農政課から産休要員として来て欲しいと要請されます。そこで海外から目を転じて日本の農業を改めて見つめてみると何か暗い停滞感が漂っていて、これを何とか盛り立てたい、と日本で農業に取り組むようになります。

お二人の出会いについては「昔のことなので忘れてしまいました。」とかわされてしまいました。でも、農業・農地とは食べ物を生産する基本的な場であると同時に、人と人がふれあう場でもある。また、「緑地」として都市環境を良好にし、水や空気の循環にも大きな役割を果たしている。命のつながりとして、生きていく基本としての「農」というものを、この見沼というフィールドで実践していけたら、とお二人のこれからの夢を語ってくれました。

こうしたお二人ですから、もちろん農業体験イベントにも積極的に取り組まれています。「食育」「環境」「コミュニティ」「命の大切さ」をテーマに、じゃがいもやさつまいもの植え付けから収穫までの栽培体験や秋野菜の収穫祭など、子供たちが楽しく取り組めるよう工夫されています。



みんなでじゃがいもの収穫体験

いまでもまだ先を行く母の背中を追っています、という恵美子さん。現在小学校1年生の娘さんも、いつか自分の後ろ姿から何かを感じてくれたら嬉しい、そのためにも日々生き生きと農業と向き合っていきたい、と話してくれた笑顔が爽やかでした。(高橋)

オーガニック・ハーベスト丸山
TEL 048-687-0140

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「上山口新田新都心を望む」
山口新田は、南北に二つの山口新田があり、江戸の鯉屋 藤右衛門が開発し、己の姓を採り新田名としたもの。

円蔵院南の上山口新田は、258石、通船堀近い下山口新田は、168石。最近開通した高速道路や埼玉新都心の近代的風景と、古くからの水田風景の組み合わせが不思議な新鮮さを感じさせる。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

見沼たんぼくらぶでは、会員みなさまの作品をみぬま通信で順番に紹介する誌上展覧会を開催します。絵画や写真、クラフト、詩や俳句など、作品を会員の皆様から募集いたしますので、誌上に掲載する作品の写真または詩文と作品の紹介文を同封の上、本誌8ページに掲載の連絡先まで郵送してください。(写真は返却いたしません。)

見沼たんぼに関わる作品を優先して紹介させていただきますが、それ以外の作品でも紹介いたします。会員の皆様の多くのご応募をお待ちしております。なお、紙面の都合上、すべての作品を紹介できない場合もございますが、ご了承をお願いします。



水墨画 作者：長澤 義則

見沼たんぼの仲間たち No. 20

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

見沼文化の会

見沼の歴史と自然とともに 皆で学び、考え、行動し、創り出していこう

見沼文化の会 生い立ちと活動

見沼文化の会は、見沼の歴史と自然とともに学び、考え、行動し、創り出していこうと、平成10年8月12名の有志で立ち上げました。堅苦しいきまりは作らず、概ね次のようなことを原則として、みんなで協力して励んでいこうと出発しました。今年で13年になりました。年間数回の会合(合評会など)を持ち、学習や情報交換の機会とする。見沼の地域を中心に、各地、各所の探訪・見学をする。機関誌「竜のひげ」を年2回発行し、会員の活動の場とすると共に、相互の向上を図る。「竜のひげ」は25号の発行が間近で、会員数は120名になり、発行部数も500部に近づきました。



2011年7月16日、見沼たんぼくらぶの招きで宮田代表が「見沼の伝説・民話」の話の後、絵話「見沼の竜」を語られ、最後に事務局高橋が影絵紙芝居「ほたるの笛」を披露しました。(見沼グリーンセンター)



2011年7月16日、見沼たんぼくらぶの招きで宮田代表が「見沼の伝説・民話」の話の後、絵話「見沼の竜」を語られ、最後に事務局高橋が影絵紙芝居「ほたるの笛」を披露しました。(見沼グリーンセンター)



機関誌「竜のひげ」の会員投稿者による合評会の様子。読後感想、活発な意見交換の後は食事会で楽しいひとときです。

見沼文化の会 入会ご案内

見沼文化の会では常時入会希望者を歓迎しております。今年4月に、見沼地域で活動されている10数団体の代表の方々が集まり、日本ユネスコ協会連盟の公募に「未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会」が立ち上がり、見沼文化の会もこれに参加させて頂きました。“首都圏の中にある貴重な大規模緑地空間”と位置づけられている《見沼たんぼ》の自然を次世代に引き継ぐ活動を多くのお仲間と一緒に取り組んで行きませんか。入会ご希望の方は、〒・住所・氏名・電話番号を電話かハガキで代表または事務局に申込下さい。入会金・年会費は不要です。機関誌「竜のひげ」代1冊 500円+郵送料のみです。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

《宮田正治略歴》

さいたま市中央区(旧与野市)大戸出身。昭和20年、埼玉師範学校卒業。教職のかたわら、日本童話会に所属し、児童文学の創作について学ぶ。昭和56年、教職を退き、見沼関連の学習・取材・創作等に専念。昭和58年、歴史小説『竜神の沼』により、埼玉文芸賞受賞。

平成10年、「領家手づくり絵本の会」会員等と『見沼文化の会』を結成し、見沼の自然と歴史についての学習・保全・普及活動などを続ける。平成18年、長年に亘り見沼文化に貢献した功により県知事より「文化ともしび賞」受賞。

現在、日本民俗学会会員、浦和郷土文化会会長、見沼文化の会代表。

《主な著書》

『竜神の沼 見沼干拓異聞』さきたま出版会(昭和58年度埼玉文芸賞受賞)

『竜神伝説 見沼代用水異聞』さきたま出版会

『ホタルの歌と見沼の竜(新釈見沼民話十二選)』幹書房

『見沼の竜と小さな神さまたち』さきたま出版会

民話絵本『見沼の竜』幹書房(日本こどもの本研究会選定図書)

『見沼おもしろ昔ばなし』見沼文化の会

見沼文化の会

代表 宮田 正治 電話 048-832-8170

事務局 高橋 正幸 電話 048 - 831-3852

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

特別展「日光御成道」期間：10月4日(火)～12月11日(日)

2 三室地区定例探鳥会

日時：10月16日、11月20日、12月18日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分 集合：9時に浦和博物館

場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ

主催：日本野鳥の会埼玉支部

参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

3 教育普及事業

東浦和図書館連携講座「日光御成道をさぐる」

日時：10月14日(金) 14時00分～15時30分

講師：浦和博物館学芸員 費用：入場無料

会場：東浦和図書館イベントルーム(プラザイースト1階)

申込み：浦和博物館へ電話(048-874-3960)

受付開始：10月4日(火) 午前9時

特別展開連講座「日光御成道周辺地域の暮らし」

日時：11月23日(水・祝) 14時00分～15時30分(13時開場)

講師：根崎光男氏(法政大学教授) 費用：入場無料

会場：浦和コミュニティセンター(浦和駅東口駅前コムナール9階) 第15集会室

申込み：浦和博物館へ電話(048-874-3960)

受付開始：11月5日(土) 午前9時

特別展ギャラリートーク

日時：11月12日(土)・12月3日(土) 11時～14時(各30分程度)

申込み：不要(当日直接会場へお越し下さい)

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

探鳥会

日時：10月2日(日)、12月4日(日) 9時～12時

対象：どなたでも 費用：中学生以下50円、高校生以上100円
切り紙の行灯づくり

日時：10月16日(日)

対象：どなたでも 費用：500円(材料費)

高野隆仙と幕末

日時：10月30日(日) 13時30分～

対象：どなたでも 費用：茶会出席の方300円

秋の自然観察会

日時：11月3日(木・祝)

対象：どなたでも、30人 費用：無料

民家園の自然観察会

日時：11月13日(日)

対象：どなたでも、20人 費用：300円

いろいろで聞く民話と昔話

日時：11月6日(日) 対象：どなたでも 費用：無料
和風作り

日時：12月11日(日)

対象：どなたでも、20人 費用：500円(材料費)

千支の切り紙作り

日時：12月18日(日)

対象：成人の方、20人 費用：500円(材料費)

詳細や申し込み方法については民家園へお問い合わせください。

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

趣味・教養講座(無料)

新論語教室「ルソー」

日時：10月1日(土) 14時～15時(定員なし)

新論語教室「モリス」

日時：10月8日(土) 14時～15時(定員なし)

見沼を染める - 柿渋 - きんちゃく袋とコースター

日時：染める / 10月14日(金)、仕上げ / 10月15日(土)

10時～12時(定員10名) * 両日出席できる方

新論語教室「トルストイ」

日時：10月15日(土) 14時～15時(定員なし)

新論語教室「ホメロス」

日時：10月22日(土) 14時～15時(定員なし)

尺八基礎講座(全5回)

日時：10月22日(土) 14時～15時(定員なし)

* 全回出席できる方

新論語教室「孔子」

日時：10月29日(土) 14時～15時

公開講座(定員なし/無料)

十三夜観月会

日時：10月9日(日) 15時～17時

秋のくらしっく寄席

日時：10月16日(日) 13時30分～16時

民話鑑賞「野山色づき菊薫る」

日時：10月23日(日) 13時30分～15時30分

季節の行事「煤払いと正月飾り」

日時：12月25日(日) 9時30分～11時

2 企画展示

「食の造形」 開催期間：12月18日(日)まで
関連講座

食育講座「青森：けの汁」

日時：11月6日(日) 11時～12時(定員なし)

食育講座「岩手：煎餅汁」

日時：11月13日(日) 11時～12時(定員なし)

食育講座「秋田：きりたんぼ汁」

日時：11月20日(日) 11時～12時(定員なし)

食育講座「見沼：収穫を祝う呉汁」

日時：11月23日(祝) 11時～12時(定員なし)

食育講座「山形：芋煮」

日時：11月27日(日) 11時～12時(定員なし)

食育講座「宮城：はっと汁

日時：12月4日(日) 11時～12時(定員なし)

食育講座「福島：こづゆ」

日時：12月11日(日) 11時～12時(定員なし)

* 同時に脱穀作業の公開もあります

正月の両口箸と箸袋作り

日時：12月17日(土) 14時～16時(定員10名)

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026

開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

第11回秋の盆栽展

日時：11月5日(土)～6日(日) 10時00分～16時00分

会場：園芸植物園 花き集荷施設(緑区大崎)

内容：松柏、さつき盆栽の展示、園芸相談等

盆栽実技講習会「材料は未定」

日時：11月6日(日) 13時30分～15時

会場：園芸植物園 花き集荷施設

定員・費用：20人(先着順) 800円(教材費)

持ち物：木ばさみ、針金切

申込：11月2日(水)の9時から電話で同センターへ

会場：園芸植物園 花き集荷施設(緑区大崎)

大宮第二・第三公園管理事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605

開館時間：8時30分～17時

休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

手づくりバッグと小ものの作品展 10月4日(火)～10月9日(日)

草花盆栽展示会 10月7日(金)～9日(日)

「おもてなしの心」陶芸作品展 10月10日(月)～16日(日)

秋の山野草展 10月28日(金)～30日(日)

フルール「押し花」作品展 11月8日(火)～20日(日)

晩秋の山野草展 11月10日(木)～13日(日)

私の好きな見沼たんぼ 2011 写 12月21日(水)～1月15日(日)

真コンクール作品展

展示者の都合により日程変更する場合があります。

2 イベント 詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

チャリティーコンサート vol.2 モンゴルの民族楽器と朗読コンサート

日時：10月15日(土) 14時～16時

場所：大宮第二公園ギャラリー 2階

費用：入場料1,500円(小学生以下無料)

展示・イベントは主催者の都合により変更する場合があります。

見沼たんぼくらのイベント案内

第85回見沼塾 『見沼の古事拾遺 庚申塔の里』

日時：10月8日(土)10時～12時
会場：旧坂東家住宅見沼くらしっく館
講師：下村 克彦(元さいたま市立博物館長)
申込み：先着20名、見沼たんぼくらす事務局へ事業名・氏名・住所・電話番号を明記して、葉書またはFAX送信
交通：大宮駅東口からバス 「三崎台」下車、南側

第86回見沼塾 『見沼の自然 秋の野の花を楽しむ』

日時：10月9日(日)10時～12時
会場：大宮第二公園南管理棟
講師：小原 邦彦(NPO法人自然観察さいたまフレンド副代表理事)
申込み：先着20名、見沼たんぼくらす事務局へ事業名・氏名・住所・電話番号を明記して、葉書またはFAX送信
交通：大宮駅東口からバス宮下行き「芝川」下車、北側または東武野田線大宮公園駅から徒歩20分

第2回見沼たんぼ・清掃ボランティア

日時：11月5日(土)10時～12時
集合：市民の森・見沼グリーンセンター正門
コース：芝川・神明下橋ー石橋
申込み：先着100名、10月14日までに下記へ事業名・氏名・住所・電話番号を明記して、葉書またはFAX送信
〒330-9301 埼玉県土地水政策課
FAX(048)830-4725
交通：JR宇都宮線土呂駅東口徒歩7分

第3回見沼たんぼウォーキング

日時：11月19日(土)8時30分～12時30分
集合：JR武蔵野線東浦和駅前広場
コース：東浦和駅前 見沼代用水西縁 氷川女体神社 芝川 浦和くらしの博物館民家園
申込み：先着50名、11月5日までに下記へ事業名・氏名・住所・電話番号を明記して、葉書またはFAX送信
〒330-9301 埼玉県土地水政策課
FAX(048)830-4725

第3回見沼たんぼ斜面林の体験学習

日時：12月11日(日)9時30分～12時
集合：大宮体育館正門
内容：見沼最大級の斜面林「大和田緑地公園特別緑地保全地区」で、自然観察の後、落葉かき
申込み：先着50名、見沼たんぼくらす事務局へ事業名・氏名・住所・電話番号を明記して、葉書またはFAX送信
集合：東武野田線大和田駅から徒歩15分

以上は参加費無料です。

市民と行政の協働事業

さいたま市みどりの祭典

日時：10月15日(土)～16日(日)9時30分～16時
会場：市民の森・見沼グリーンセンター
内容：「みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを守り育てましょう！」というスローガンの下、来場者が「作る」「調べる」ことを主体とする市民参加型のイベントです。日曜日の午後は野口喜広のオカリナ演奏もあります。
交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩7分または東武野田線大和田駅から徒歩16分
問合せ：TEL(048)829-1423
さいたま市みどり推進課

さいたま市環境フォーラム

日時：10月21日(金)～22日(土)10時～16時
会場：JRさいたま新都心駅東西自由通路
内容：「自然と共生し持続可能な環境を未来ある子どものために伝える都市(まち)」をテーマとして、市民団体・学校・企業・行政がそれぞれの環境保全活動をパネル展示などでアピールします。クイズスタンプラリーも実施。
問合せ：TEL(048)829-1323
さいたま市環境総務課

てくてく見沼『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日時：10月29日(土)8時30分～12時
集合：大宮南部浄化センター
コース：大宮南部浄化センター 上山口新田 圓蔵院 中山神社 三浦運動公園 大宮南部浄化センター 約6km
交通：大宮駅東口からバス 中川循環「円乗院下」下車 徒歩5分
問合せ：TEL(048)681-6020
見沼区役所コミュニティ課

「見沼たんぼくらす」をお友達に紹介してください! 「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう! 年会費:個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

〔編集・発行〕見沼たんぼくらす

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX:(048)683-1764

URL: <http://minumatanbo.web.fc2.com/>